

セッション2「成果と課題」

【石川地区】

○成果

- ・地区についてホームページやSNSで情報発信をするとともに、住民自らの勉強にもなっている。

○課題

- ・地区振興会はあるが、新しい人材の登用や地域住民の参加を考えるとコミュニティ組織が必要と考える。
- ・旧集落と団地が混在しているが、40代以下は新旧の垣根がないので、地域全体のまちづくりを考えなければならない。
- ・各種団体の役員改選があると改めて、まちづくりについて周知しなければならない。また、定年の延長により人材が減ることが想定される。
- ・若い人たちの登用を考えなければならない。
- ・全住民アンケートを考えていきたい。

【山島地区】

○成果

- ・今まで公園や公民館などの清掃活動は、壮年会と町内会長会の30から40人で実施していたが、今年度は地域コミュニティ組織の賛同団体で実施したところ75人の参加を得ることができた。

○課題

- ・「山島の明日を考える集い」において、「市民協働で創るまちづくり」をテーマにワークショップを行い、課題に係るアイデア出しを考えていたが、新型コロナウイルスにより中止した。

【千代野地区】

○成果

- ・非常に拙速だったが、10月に組織を立ち上げた。
- ・平成29年度に策定した千代野将来ビジョンを各種団体連絡協議会で推進する予定だったが、協働のまちづくりに合わせて推進したい。
- ・全住民アンケート調査を実施し、回収は1900世帯中1600世帯で85%、人口当たりでは73%という非常に高い回収率を得た。また、アンケート結果の入力作業に10人ほど協力を得た。来年度はアンケート結果をもとに意見交換をしたい。

○課題

- ・今後の課題は、実行組織の形成である。

【蝶屋地区】

○成果

- ・蝶屋には地区振興会や青年部がないので、地区全体を考える会ができたことが成果である。地区内の各種団体を支援できる組織になればいい。

○課題

- ・各種団体の担い手がない。
- ・こども園の保護者に声をかけたが参加してもらえず、時間に余裕がある人が関わってもらえばいいと思っている。

【館畑地区】

○成果

- ・準備会は、地域の各種団体、消防団、安協、JAの運営委員会など普段顔を合わさないメンバーで構成された。活発に意見交換ができる土壌をつくりたい。
- ・マスコットキャラクターを公民館に掲示したところ、住民からかわいらしいものができたと言ってもらえた。地域が何となくうれしい、楽しいものになればいい。コロナで事業が出来ない中でも楽しくできることを伝えたい。

○課題

- ・学校区と公民館区が一致していないので、館畑地区という意識をどれだけ持っているのか。地区に対する意識をどのように醸成いくか。
- ・新旧住民の意識の違い、理解度や温度差が異なる。

【白峰地区】

○成果

- ・まちづくりに対するスタートができた。

○課題

- ・人材の発掘。
- ・現状のまちづくり活動のすみわけと連携。コミュニティ組織がするものとそうでないもの。既存団体のまちづくりがあっても、コミュニティ組織で決めてオーソライズされれば、地域全体の活動になる。
- ・若い人中心にプロジェクト活動を考えているが、自分たちで解決できる課題でないと難しい。過疎や少子化について、プロジェクトではなかなか難しい。活動が持続するためには、目に見える成果と自分たちの活動でどうやって解決していくかが課題である。
- ・誰かでなくて私がやるということになってほしい。
- ・関係人口と呼ばれる他の地域の方と一緒に考えて体制づくりを進めていきたい。